

令和7年度 立川市立第六小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	◎考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子
---------	---------------------------

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を身に付け、よく考え、自分からすすんで活動する子（考える子） ○健全な人権感覚をもち、温かい心で支え合う子（思いやりのある子） ○自他の生命と安全に関心をもち、心身ともに健康で明るい子（元気な子） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「立川市民科」に取り組み、教科横断的な学習を図る。 ・校内研「主体性をもつ児童の育成」の実践の中で、自己肯定感や自己有用感を高め、自ら考えて行動し、思いや考えを伝えられる児童の育成を目指す。 ・児童が「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を目指した授業改善を図る。

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組 (学習活動など)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」に関して、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う力を身に付ける。 ○「書くこと」に関して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を身に付ける。 ○「読むこと」に関して、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習などを通して、目的や意図に応じて必要な材料を集め、それらを比較、分類して関係付けながら、伝える内容をまとめる活動を多く取り入れた指導を行う。 ・図や表を関連付けて自分の考えを書く活動や、事実と感想、意見とを区別して書く活動を取り入れる。 ・物語文だけでなく、図表が用いられている説明的な文章に触れる機会を増やせるように、朝の時間帯など、日常的に読書に親しむ時間を多くもたせるようにする。また、言語活動において、詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動を多く取り入れた指導を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども自らが問題を捉え、追究する過程に応じて、教科書及び資料集、地図帳や地球儀、年表、ICT教材等を用いて調べ学習を行い、問題解決のために資料を適切に選び、読み取り、まとめる技能を身に付ける。 ○文章や図表を使って考えを説明したり、考えたことや根拠や理由を明確にして議論したりする力を身に付ける。 ○理解する内容を系統的・段階的に習得する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材を教材化したり、教師が使用する資料を精選したりし、資料をしっかりと読み取る活動を取り入れる。 ・資料から読み取ることだけでなく、なぜそうなったのか時代背景を考えさせたり、複数の資料を関連付けて共通するキーワードを考えさせたりする活動に取り組ませる。 ・調べたことを基に、分かったことや気付いたことをグループで交流し、その内容を全体で共有する活動を取り入れ、協働的な学びが自然な形でできるようにする。 ・単元のまとめに、教科書の二次元コード等を活用し、学習を振り返り、学習問題に対する自分の考えを明示された「キーワード」を用いて、まとめることができるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の基礎・基本的な知識・技能を身に付ける。 ○文章から正しい演算決定ができる力を身に付ける。 ○問題を解決するために、場面にに応じて必要な数量やその関係を捉え、図や式に表したり、答えを求めたりすることができる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを言葉や式・図・表・グラフ等を使って、ノートにまとめたり、伝え合ったりできるようにする。 ・毎週金曜日の朝学習で、東京ベーシック・ドリルに取り組ませる。また、計算ドリル等も繰り返し活用し、学習の定着を図る。学期に一度、診断テストを行い、学習の定着状況を把握する。 ・線分図、テープ図、数直線図等を用いて数量関係を明瞭化させ、問題を処理する力を高められるようにする。 ・文や図、表、グラフ等を活用して自分の言葉で表現し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする時間を十分に確保する。 ・データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、必要な情報を読み取る力や、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解できるようにする。 ・図や式などを用いて、基準量と比較量の関係を表す力を身に付けられるようにする。 ・ICT機器を活用したり、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表やグラフを用いて表現する力を高めたりできるように、計画的に指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○観察、実験などを行い、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録したり、表現したりする力を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、問題解決能力や思考力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対するまとめを導き出すために、解決するために何を観察するのか、どんな実験方法が適切なのか、考える時間を十分に確保する。 ・実験から得られた結果を基に問題に対して考察する活動を積極的に取り入れる。

生活	<p>○社会及び自然に直接関わることで生まれる一人一人の気づきを共有し、自分の考えを深める力を身に付ける。</p> <p>○自分の生活について考え、表現する力を身に付ける。</p> <p>○自分を取り巻く環境を意識し、興味をもったことを調べたり、新しい事に意欲的に取り組んだりする力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や考えを知り、合意形成していく過程も学習と捉え、体験した事柄を伝え合うなど、交流する活動を意図的に設ける。 目的に合った表現形態（絵、新聞、ポスター、劇等）を児童自らが考え、工夫できるように、それぞれの学習の観点を明確にした指導を行う。 活動に見通しをもたせ、意欲や関心を継続できるように、他学年との交流活動や体験的な学習を取り入れた指導を行う。
音楽	<p>○音色、リズム、旋律などと曲想との関わりを理解し、音を合わせて演奏したり、声の響きが重なる面白さを生かして歌唱したりする力を身に付ける。</p> <p>○音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴く力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 技能を身に付けるためのポイントを明確に示し、スモールステップで取り組むことができるようにしたり、個々の実態に合わせて目標を選択したりできるようにする。 ICT 機器やリトミックスカーフなどの教具を適切に活用する。 歌詞の内容や曲想について理解し、思いや意図をもって表現ができるよう、児童に考えさせる発問をする。
図画工作	<p>○材料や用具の特徴を理解し、つくりたいものに合わせて材料や用具を選ぶなど、工夫しながらつくる力を身に付ける。</p> <p>○自分のイメージを色や形で表現することができ、どのようなものをつくりたいか思い付く力を身に付ける。</p> <p>○自分や友達の作品のよさや面白さを感じ取る力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年の実態に応じて使う材料や用具を精選し、新しい材料や用具と出会うときには、試したり、慣れたりする時間を十分に確保する。 一人一人の児童の思いを実現させるため、試行錯誤することができるよう、様々な用具や材料の準備をする。 友達と作品を見合ったり、アドバイスしたりする時間を設けたり、ワークシートの発問を工夫したりする。
家庭	<p>○調理や製作に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる。</p> <p>○日常生活にあった場面や相手を想定して、自らの生活をよりよくしようとする力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全な器具・用具・道具の使い方を ICT 機器で学習した後、実際に使って確認する。 技能を身に付けるためのポイントを明確に示し、スモールステップで取り組むことができるようにする。 家事に目を向け、家族の一員としての役割が果たせるような学習課題を設定する。
体育	<p>○積極的に体を動かし、各種運動の基本的な動きを身に付ける。</p> <p>○友達と話し合ったり、教え合ったりしながら高め合う力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業のウォーミングアップに、鬼ごっこや縄跳びなど、走力や持久力を高める運動を取り入れる。全校で行う「なわとび週間」「持久走週間」を活用し、持久力をつける指導を行う。 グループで練習をする活動を取り入れたり、技術面や取り組み姿勢に対する振り返りの時間を設けたりし、友達との関わりを通して学習の質を高められるようにする。
外国語	<p>○外国語に興味を持ち、基礎的な技能を身に付ける。</p> <p>○学習したことを使って、自分の考えや気持ちを、自信をもって表現する力を身に付ける。</p> <p>○異文化に興味をもち、多様な文化を尊重しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを視覚化し、見通しをもたせる。「グリーティング」「ウォームアップ」→「アクティビティ」→「レビュー」「グリーティング」という手順で授業を展開し実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにする。 身近な題材を教材化したり、ICT 機器を活用したりするなど、児童が意欲的に活動し、視覚的に外国語の表現や、多様な文化について理解しやすくする。 自分の気持ちや、考えを伝え合う言語活動を毎時間設けることで、子どもが主体的に取り組めるようにする。 毎時間のめあてをはっきりさせ、学習を振り返ることで、その時間にどんな力を身に付けたかを一人一人が意識し、単元終末の言語活動に意図的に取り組めるようにする。